

## 課題管理実施報告書

報告日：2010年11月26日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	シンガポール国際生物物理ワークショップ
実施日	2010年11月9日(火)～2010年11月12日(金)
場所	シンガポール国立大学内 (The Shaw Foundation Alumni Center)
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ <del>ワークショップ</del> その他 ( ) 展示物: <input checked="" type="checkbox"/> (機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他 (パンフレット)) 無
対象者	一般 <input checked="" type="checkbox"/> (学生) (中学・高校・ <del>大学</del> ) <input checked="" type="checkbox"/> (その他 (大学教員・研究者) )
来場者	人数: 150名、(内訳 講演者 49名、ポスター発表者 123名、参加者 200名)
周知方法	新聞 雑誌 <del>学会誌</del> メディア取材 プレスリリース <input checked="" type="checkbox"/> (HP) <input checked="" type="checkbox"/> (メール発信) その他 ( )
実施者	○実施取り纏め者を記載 主催: アメリカ生物物理学会、共催: メカノバイオロジーRCE (国立シンガポール大学)、早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所 (WABIOS)、日本学術振興会
内容	○実施内容を具体的に記載 “Actin, the Cytoskeleton and the Nucleus (アクチン、細胞骨格と細胞核)” というタイトルで、シンガポールを中心とするアジアに限らず、世界中から生物物理学、細胞生物学研究者を中心に、この分野の主だった研究者が集い、4日間にわたって早朝から丸一日、発表、討論、情報交換を行うという、大変密度の濃い会合となった。わが国からの参加者は招待講演者4名 (成宮周、柳田敏雄、馬淵一誠、石渡信一)、Short Talk講演者2名を含めて30名を超える盛況となった。プログラムなどは別紙として添付する。
効果、問題点、今後の展望と課題	○実施した効果を具体的に記載 本プログラムによる共催を実現できたことにより、石渡がOrganizing Committeeのメンバーの一人となることができ (別紙参照)、会期の半ばで、本WSの代表 (Ed Egelman) から、学振とWABIOSによる共催にとくに感謝するという、スライドを使った紹介があり、参会者からの大きな拍手をもらった。また、わが国からの招待講演者2名と、若手参加者 (ポスター発表) 10名の選考 (生物物理学会のHPや、生体運動合同会議のHPを通じての公募を行った) と支援を行うことができたことで、WABIOSの活動を、とくにわが国の研究者たちに認知させえたことが上げられる。さらに、言うまでもないが、参加者の半数以上はシンガポール在住の研究者であり、その研究者たちに、WABIOSという大学付置研究所が、わが文部科学省の支援を得てシンガポールを拠点として研究活動を活発に進めていることを強く印象づけることができたこと、この2点を強調したい。設立1年を迎えたWABIOSの存在と活動を広く知ってもらえる良い機会となった。本プログラムの支援に深謝する。  ○ 実施上の問題点を具体的に記載 これは私自身の認識不足にあったが、研究者たちへの資金援助の事務手続きの全

てを大学事務担当者に任せることをしなかったために、時間的ロス、労力の点で負担が大きかった。私自身このような作業に不慣れであり、採択時点で具体的手順をしっかりと理解すべきであった。もっと大きな課題としては、もう少し時間的余裕があれば、わが国からだけでなく、韓国、中国、インドなどにも呼びかけ、参加者（とくに若手）への資金援助も実現したかった。将来のアジア交流への布石という意味で。

○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載

幸い、WABIOSの研究体制（主任研究者3名、PDや技術員、コーディネーター）が1年前の予定通りに整い、シンガポールの大学（NUS、NTU）・研究機関（A\*STAR）との個別の共同研究契約もほぼ実現できたことと、今回の知名度アップとが相乗効果となって、シンガポールでの研究展開・情報交換が容易になった。今後のWABIOSの活動にどれほどプラスになったか、計り知れない。WABIOSは小さな組織だが、わが国の大学・研究機関としてはほとんど初の本格的海外研究拠点であり、これをコアとして、生命科学に限らない交流を進めて行けると考える（早稲田大学における認知度アップも重要であり、今回のプログラムはその点にも寄与した）。